## 演習レポート(第2回)解答例

課題 2.1.  $O(2) = \{A \in M_2\mathbb{R} \mid {}^tAA = E\}$  と  $SO(2) = \{A \in O(2) \mid \det A = 1\}$  のリー環  $\mathfrak{o}(2)$ ,  $\mathfrak{so}(2)$  を考える.

- $(1) \mathfrak{o}(2) = \{X \in M_2 \mathbb{R} \mid {}^t X + X = O\}$  となることを示せ.
- (2) 教科書の命題 10.14 と (1) より  $\mathfrak{so}(2) = \{X \in \mathrm{M}_2\mathbb{R} \mid {}^tX + X = O, \ \mathrm{tr}\, X = 0\}$  となることが分かる. 一方, 演習 4.21 により  $\mathrm{SO}(2) = G_J$  なので, 命題 10.15 により  $\mathfrak{so}(2) = \mathfrak{g}_J = \mathbb{R}J$  となるはずである. これを直接的に確かめよ.

[解答例] (1) リー環の定義 (教科書の  $\S10.3$ , 定義 10.13) により,  $X \in M_2\mathbb{R}$  について,

$$X \in \mathfrak{o}(2) \Leftrightarrow G_X = \{\exp(sX) \mid s \in \mathbb{R}\} \subset \mathrm{O}(2) \Leftrightarrow \exp(sX) \in \mathrm{O}(2) \quad (\forall s \in \mathbb{R})$$
  
  $\Leftrightarrow {}^t(\exp(sX))(\exp(sX)) = E \quad (\forall s \in \mathbb{R}).$  (2.1)

また、教科書の §4.2、命題 4.11 により、

$$^{t}(\exp(sX)) = \exp^{t}(sX) = \exp(s^{t}X).$$

ここで、教科書の  $\S 4.2$ 、命題 4.7 を用いて (2.1) の左辺を  $\exp\{s(^tX+X)\}$  と書き直したいところだが、この場合は前提条件が満たされているかどうかは分からない  $(^tXX=X^tX$  とは限らない)ので、命題 4.7 は使えない.そこで、別の方法を考える.系 4.9 により  $(\exp(sX))^{-1}=\exp(-sX)$  なので、(2.1) の両辺に右から  $(\exp(sX))^{-1}$  をかければ、

$$X \in \mathfrak{o}(2) \Leftrightarrow \exp(s^t X) = \exp(-sX) \quad (^{\forall} s \in \mathbb{R})$$
  
 $\Leftrightarrow {}^t X = -X$   
 $\Leftrightarrow {}^t X + X = O$ 

を得る. 上式の二つ目の  $(\Leftrightarrow)$  は次のように証明される: まず  $(\Leftarrow)$  は明らか.  $(\Rightarrow)$  は、両辺を s で微分して s=0 とおけば、

$${}^{t}X = \frac{d}{ds}\Big|_{s=0} \exp(s^{t}X) = \frac{d}{ds}\Big|_{s=0} \exp(-sX) = -X.$$

あるいは、教科書の  $\S 4.4$ 、定理 4.18 の行列対数関数を用いても  $(\Rightarrow)$  を証明できる.  $||\exp(s^tX)-E||<1, ||\exp(-sX)-E||<1, ||sX||<\log 2$  となるような十分小さい s>0 をとれば、

$$s^{t}X = \log(\exp(s^{t}X)) = \log(\exp(-sX)) = -sX$$

となるので,  ${}^tX = -X$  を得る.

以上により,  $\mathfrak{o}(2) = \{X \in M_2\mathbb{R} \mid {}^tX + X = O\}$  が示された.

$$(2) \ X = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in M_2 \mathbb{R}$$
 とおくとき、

$${}^{t}X + X = O \Leftrightarrow \begin{pmatrix} 2a & c+b \\ b+c & 2d \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} \Leftrightarrow a = d = 0, \ b = -c$$

となる. 従って,  ${}^tX + X = O$  ならば自動的に  $\operatorname{tr} X = 0$  も満たされ,

$$\mathfrak{so}(2) = \mathfrak{o}(2) = \left\{ \begin{pmatrix} 0 & -c \\ c & 0 \end{pmatrix} \middle| c \in \mathbb{R} \right\} = \{cJ \mid c \in \mathbb{R}\} = \mathbb{R}J$$

であることが確かめられる.

課題 2.2. 教科書の 10.2 節で SL<sub>2</sub>R の岩澤分解

$$SL_2\mathbb{R} = SO(2) \cdot G_H \cdot G_N$$

について学んだ、実は、これと同様の分解がリー環についても成立する、 512 配 が次の ようにベクトル空間の直和に分解されることを示せ:

$$\mathfrak{sl}_2\mathbb{R} = \mathfrak{so}(2) \oplus \mathfrak{g}_H \oplus \mathfrak{g}_N.$$

[解答例] 任意の  $X \in \mathfrak{sl}_2\mathbb{R}$  に対し、ある  $X_J \in \mathfrak{so}(2), X_H \in \mathfrak{g}_H, X_N \in \mathfrak{g}_N$  が一意的に 存在して,

$$X = X_I + X_H + X_N$$

と書けることを示せばよい. 
$$(存在性)\; X = \left( \begin{array}{cc} a & b \\ c & -a \end{array} \right)\; \texttt{とおく}.\;\; \mathtt{これに対}\, \mathsf{し},$$

$$X_J = cJ \in \mathfrak{so}(2), \quad X_H = aH \in \mathfrak{g}_H, \quad X_N = (b+c)N \in \mathfrak{g}_N$$

とおけば  $X = X_J + X_H + X_N$  を満たす.

(一意性) 任意の  $X_J, X_J' \in \mathfrak{so}(2), X_H, X_H' \in \mathfrak{g}_H, X_N, X_N' \in \mathfrak{g}_N$  について、

$$X_J + X_H + X_N = X_J' + X_H' + X_N'$$
(2.2)

が成り立つならば  $X_J=X_J'$  かつ  $X_H=X_H'$  かつ  $X_N=X_N'$  となることを示せばよ い、そこで、 $X_J = cJ, X_J' = c'J, X_H = aH, X_H' = a'H, X_N = bN, X_N' = b'N$  とおい て, (2.2) が成立するときに c=c' かつ a=a' かつ b=b' となることを示そう. もし (2.2) が成り立つならば,

$$X_J + X_H + X_N = \begin{pmatrix} a & b - c \\ c & -a \end{pmatrix}$$
$$= X'_J + X'_H + X'_N = \begin{pmatrix} a' & b' - c' \\ c' & -a' \end{pmatrix}.$$

だから、各成分を比較して  $a=a',\ c=c',\ b-c=b'-c'$  を得る. 従って b=b' もいえるので、これで証明ができた.